

ヨコハマ市民まち普請事業

第2次提案書

- 注1) 2号様式はページを増やさず、必ず3ページ以内でまとめてください。
 注2) 2号様式は市民に公開しますので、個人が特定できる情報は記入しないでください。
 注3) 添付資料は計画図(位置図・平面図・完成予想図各A3判1ページ、その他必要に応じて配置図・断面図・立面図等)、想定整備費用内訳書(第3号様式)、協議・説明状況報告書(第4-1～3号様式)、1次コンテスト以降の活動内容(任意様式A4判1ページ)、その他資料(必要に応じてA3判2ページまで)

提案グループ名 (25字以内)	師岡熊野神社「いの池」愛護会
整備場所 (町名又は丁目まで記入)	港北区師岡町
提案名 (25字以内)	いの池を中心とした地域資源循環システムの再生と維持
助成金申請予定額	500万円
整備する施設 (具体的な整備内容*1を工夫した点*2にも触れて記入してください) ※1施設の全体像とともに整備助成金の対象箇所を明記してください ※2住民等が持つ発想、方法などを生かしたアイデアやユニークさ及びデザインへの配慮	<p>流入水がほとんどない「いの池」の抜本的な水質改善のために公道を横断して神社から「いの池」に導水する。あわせて下記の整備をおこなう。</p> <p>1. 神社から池への導水管の設置 新鮮な水を導水して水質改善をはかるために ⇒神社の社殿裏手でくみ上げた地下水が循環している「令和神苑」のオーバーフロー水および社殿屋根の雨水や手水舎のオーバーフロー水を高低差を利用して「いの池」に導水する。道路の横断は占用許可を得て配管を埋設する。</p> <p>2. 池周囲の環境整備 老朽化した石積護岸の安全対策と水辺の魅力創出のために ⇒崩れかけている石積や浮石の一部を修復する。 護岸の点検結果を踏まえ、大幅な費用増が予想されるので今回は危険箇所2か所を簡易的に修復する。 ⇒排水口を水位調整ができるように改良し、水量確保により夏季の水質改善を図る。 ⇒水辺植物と池周囲の植栽を増やす。 尚、一次コンテストで提案した水辺において水辺に親しめるための固定階段の設置は水辺空間作りの詳細デザインの後に設置を検討する。</p> <p>3. 活動掲示板の新設 まちの人に向けて活動報告や行事予定など情報発信するために ⇒掲示物が濡れず飛散しない耐候性のある自立掲示板を新設する。裏面も有効活用できる場所に新設する。</p> <p>4. 太陽光発電の発電容量アップ（新規提案） 水質改善のために池の水を空気にさらすエアレーションと池の水のろ過の稼働時間拡大及び年末年始等の池のライトアップ電源に使用するために ⇒発電能力の大きいパネル、容量の大きい蓄電池を設置する。</p>
施設の活用・活動内容 (具体的な活動内容を工夫した点にも触れて記入してください) ※第1次提案書より	<p>これまでの①かい掘り②清掃活動③子どもたちを含めた地域交流に加え、下記の活動を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 愛護会の活動理念や歴史のとりまとめと発信 2. 目指す活動の方向性・将来像のデザインと共有、それに向けた態勢づくり 3. 池に足を運ぶ機会を増やす(定例活動日の設定) 4. 池と森を護る活動 5. 池に親しむための企画 6. 情報発信（新設する掲示板で活動内容を発信・交流スペース活用、YouTubeチャンネルの開設）

<p>具体的に記入してください</p>	<p>※詳細は添付資料「いの池愛護会の「これまで」と「これから」」参照。 今までの活動を通じて得られた経験を振り返り、次のアクションに活かして行く。また、会員だけではなく地域に住む次世代の人たちと実施した「いの池を護るとはどういうことか？」の意見交換・気づきの場を継続して実施する。 <得られる効果> 1. 池への導水により抜本的な水質の改善と水質の維持をはかれる。 2. 水と土と森の地域資源循環システムを再生し維持することで池に生きる生物や池に集まる生物が多様化し、豊かな自然を再生できる。 3. 子どもたちが自ら活動し大人とかいぼりや掃除の一員として協働作業することは、子どもたちの達成感を醸成し貴重なふるさとの経験になる。 4. 世代を超えて人がつながり、それぞれの世代に応じた役割を果たせる地域コミュニティが生まれる。</p>
<p>提案の背景 (なぜ提案をするのか、地域のニーズや課題、生かしたい地域の魅力等に触れて説明してください) ※第1次提案書から変更した点がある場合はその理由も記入してください</p>	<p><地域の魅力> いの池は1300年の歴史を有する師岡熊野神社の一角にあり、横浜市の史跡に登録され、市民の森に指定されている。歴史と自然に触れられる憩いの場として、地域(まち)のオアシスとして地域の人々から愛されるポテンシャルを秘めた場所である。 <課題> いの池は新幹線工事や宅地化で流入水がなくなり、池の水の自然循環が途絶えてしまった。その結果、特に雨の少ない夏季には池にアオコが発生し、僅かに異臭がするようになってしまった。もはや憩いの場所で無くなりつつあったが、かい堀等で少しずつ改善を図ってきた。 <ニーズ> 誰かが整備してくれるだろうという他人任せだったが、「地元の私たち皆でいの池の自然を再生し美しく護り続ける」という思いが地域の人々の間で芽生えてきた。 ◎いの池の水をきれいにし、まちの憩いの場を取り戻したい。 ◎池を中心とした師岡地域の自然を保全することで、子どもたちが自分のふるさとに愛着と誇りが持てるようにしたい。 ◎池に来ると、世代を超えて顔見知りの誰かがいるような、人と人がつながる地域コミュニティづくりにつなげたい。</p>
<p>整備プロセス (スケジュール、つくるときに連携する仲間の役割や活用する地域資源注4)、費用削減の工夫に触れて説明してください)</p>	<p>専門の工事及び土木工事はいの池にも詳しい地元の業者の協力を得る。周辺の整備などは「いの池」愛護会会員(以下「会員」)が中心に作業をおこなう。 ・整備にはできるだけ子ども達の参加を募り、大人と協働作業を経験してもらおう。 ・石積護岸の浮石の隙間への小石の充填や、簡易的にモルタルで固定する方法による修復は会員のDIYでおこなう。 ・活動掲示板の設置工事はモルタル工事が得意な会員を中心におこなう。 ・太陽光発電設備の製作と設置は電気工作と木工・機械工作の得意な会員を中心におこなう。</p>
<p>維持管理・運営計画及びその実施方法 (維持管理・運営するときに連携する仲間の役割や活用する地域資源注4)に触れて説明してください)</p>	<p>地域の人々や次世代を担う子どもたちのアイデアを取り入れながら、世代間で役割を分担していの池の環境保全活動を続けていく。 <ヒト>友好団体の神輿会(労力提供)及び活動に賛同する協力者・協力団体の参加を得る。更に電気設備、電気工作、竹細工、動画制作等の会員が有する多様なスキルを活用する。 <モノ>活動で使用する作業用具の一部や電気、運搬車両は引き続き地域の協力者の所有する機材を活用する。 <カネ>会員からの会費を基盤とし、会員以外の支援者の応援寄付金を発展的な投資の原資とする。</p>

注4)「地域資源」とは、次のようなものを想定しています。

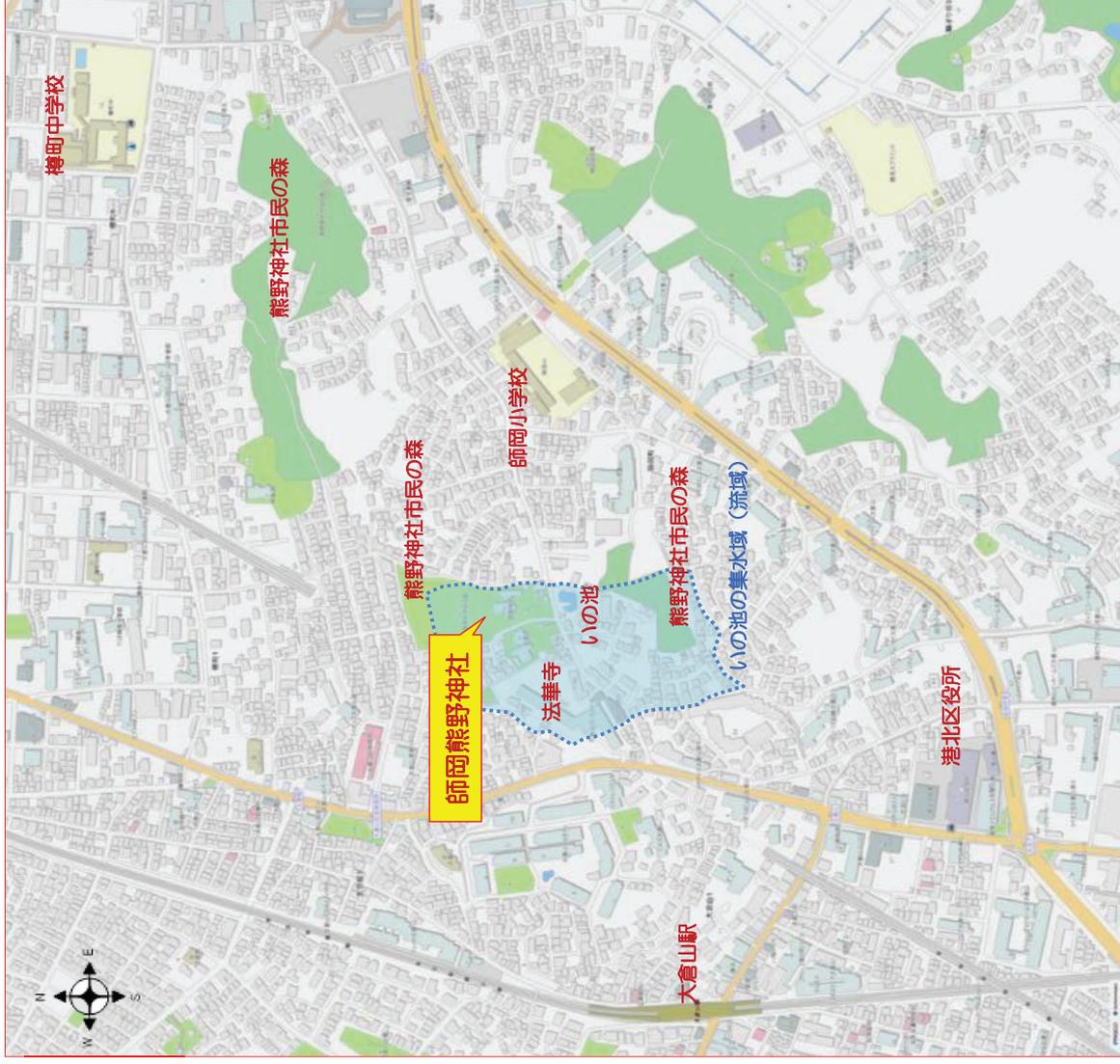
- 「ヒト」の例 ・地域のPTAから協力を受けられそう。 ・地域に設計の専門家がいる。
- 「モノ」の例 ・整備に必要な材料を安く入手できそう。 ・整備に必要な建設機材を安く借りられそう。
- 「カネ」の例 ・自治会町内会から資金的な支援を受けられそう。 ・バザーなどで資金を集められそう。

<p>1次コンテスト以降の活動内容 ※詳細については添付資料（任意様式）に記入してください</p>	<p>1. 「いの池を中心とした地域資源循環システム」再生と維持のアクション</p> <ul style="list-style-type: none"> 7、9月：水質改善システムのメンテナンス(ろ過槽清掃・ポンプ交換) 8～11月：神社及び池周辺の清掃、落葉清掃（定期・不定期） 9月：6月のかいぼりで引き上げて乾燥させた泥の搬出(9月) ※ 11月：「子どもと大人の池のそうじ」※ <p>2. 大人と子どもの全世代交流の場づくり（コミュニティの深耕）</p> <ul style="list-style-type: none"> 11月：「いの池を護ることはどういうことか」について次世代を担う若い人々と話し合い、次のアクションの可能性を探った。 11月：師岡小学校2年生の地域連携授業「まちたんけん」で子ども達からの質問に答えながらいの池を護る活動を伝えた。その後、落葉の掃除をおこない愛護活動を体験した。 9～11月：年末年始の池のライトアップ企画と点灯準備 ※ <p>3. 自然環境と人工施設その実態調査と把握</p> <ul style="list-style-type: none"> 8月：活動検討会を開催し、まちづくりコーディネータの委嘱を決定した(水・緑・環境が得意分野)。 整備対象場所を良く知っている協力工事業者を選定した。 8～11月：整備施設の仕様検討と費用の見積を得た。協力工事業者と共に整備内容を精査した。 9、11月：池への導水可能水量を調査、石積護岸の状況を調査した。※ <p>※の詳細は添付資料「1次コンテスト以降の活動内容」を参照。</p>
<p>関係者の合意・調整状況 (地域《地権者、整備場所の近隣住民、地域住民、自治会町内会等》での合意形成や関係機関との調整結果の概要について説明してください)</p>	<p><地域>関係者より合意を得た。是非とも進めて欲しいとの意見であった。</p> <ul style="list-style-type: none"> 近隣住民（法華寺及び6戸） 地権者(師岡熊野神社)宮司(いの池愛護会監事、提案メンバー) 熊野神社市民の森愛護会会長(いの池愛護会監事、提案メンバー) 町内会役員会 <p><横浜市></p> <ul style="list-style-type: none"> 港北土木事務所 申請内容を問い合わせ。既存埋設管調査等を踏まえ、書類を整えたら正式に申請を受付ける意向。 北部公園緑地事務所：利用者の安全に関する相談に載っていただける。
<p>その他提案について特にPRしたい点を記入してください</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◎愛護活動当初は「何をやっているんだ」と訝しげに見られていた「かいぼり」が、「今年はいつですか？」という問い合わせをもらう程に、今やこの町の春と秋の年中行事として当たり前になった。 ◎地元の顔見知りでかい掘し清掃することが、子ども達にも大人達にも地元の自然への思い、ふるさとへの愛着を醸成する機会になっている。 ◎今では大人からも子どもからも、みんなで話し合い・気づき・一緒に行動した経験から、「これをやってみよう」という声が自然に上がり始めた。 ◎これらから「いの池を中心とした地域資源循環システムの再生・維持に向けた活動」が創出され、可動性が高まっている。
<p>目指す地域の将来像 (施設が整備されることにより地域がどのように良くなるのか、地域に及ぼすインパクトについて説明してください)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◎「いの池」を美しく維持・保全し、池に生きる生物や池に集まる生物の多様化、豊かな自然の再生につなげる。 ◎池を中心とした「熊野神社市民の森」全体の自然・資源循環を保全することで、子どもたちが自分のふる里に愛着と誇りを持てるようになる。 ◎活動を通じ、同世代の輪に加え、世代を超えたコミュニティが生まれ、災害時にも助け合えるまちになる。 ◎5年間の活動を通して①水と土と森の循環の輪②世代を超えた担い手の循環の輪③アクションとアイデアの循環の輪ができたことがはっきり認識できるようになった。次世代の活動を担う子供たちと共に次の100年先を見据えた活動を共有していきたい。 <p>※活動の内容は添付資料「いの池を中心とした地域資源循環システムの再生・維持に向けた活動」参照。</p>

記載内容について次の点を確認後、チェックボックスに✓を入れてください。

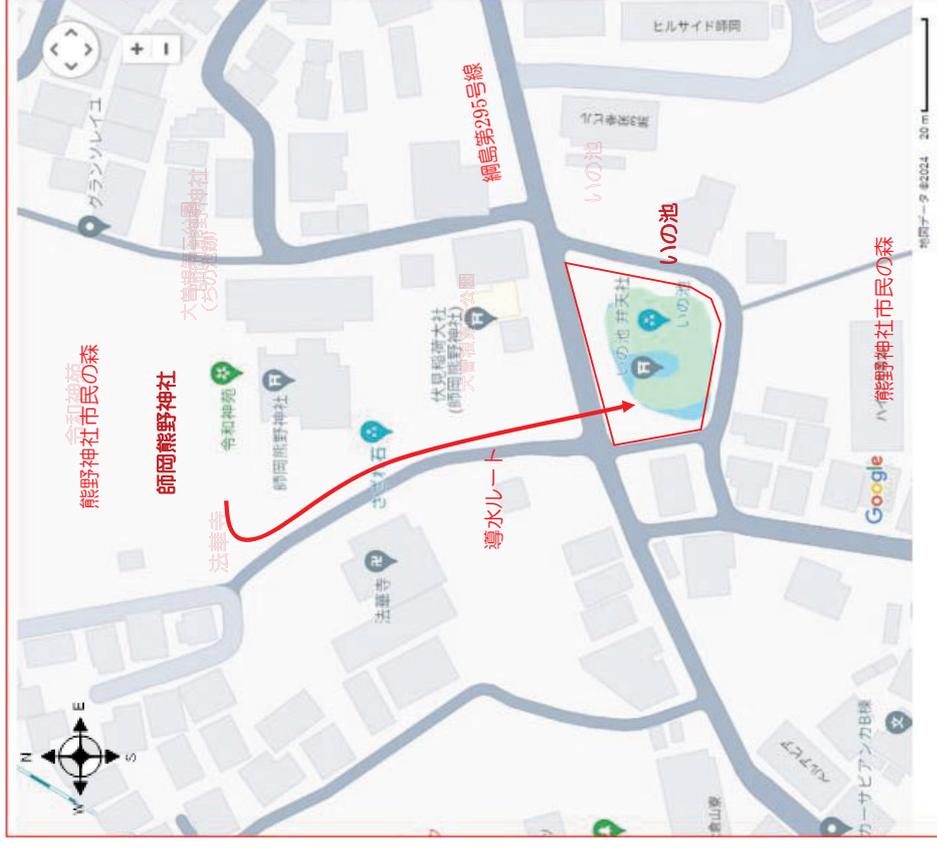
- 記載内容は真実であり、虚偽はありません。
- 記載内容に個人情報はありません。

1.位置図

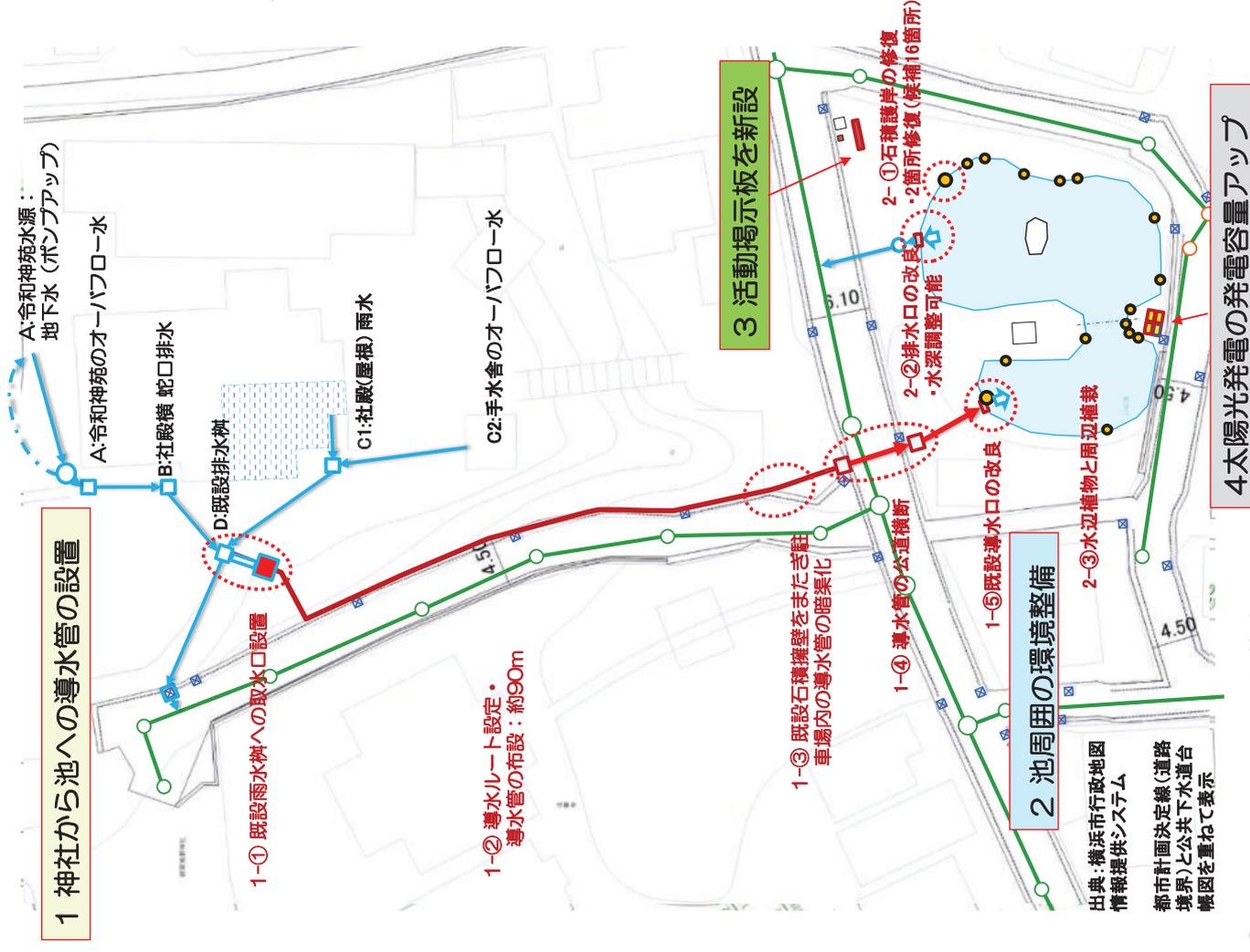


横浜市行政地図情報提供システム(はまびこマップ)より

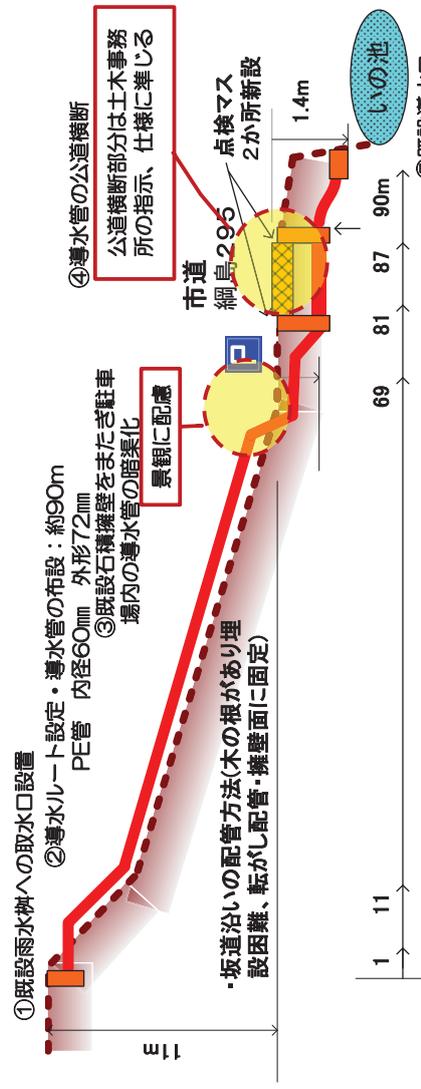
拡大図



2. 平面図



● 導水ルート断面案



A 令和神苑 水源



C1 社殿雨水樹



1-① 取水口設置予定場所



1-② 導水予定ルート



1-③ 導水予定ルート



1-④ 公道横断予定場所



1-④ 公道横断予定場所



1-⑤ 既設導水口



2-① 護岸修復予定箇所



2-② 排水口の改良箇所



3 現場示板



4 太陽光発電設備



3.完成予想図

- 1 神社から池へ導水管の設置
- 2 池周囲の環境整備
- 3 活動掲示板を新設
- 4 太陽光発電の発電容量アップ

既設排水口の改良：水位調整を可能にするためT型継手の設置やキャップの工夫

新設継手 (T型)

- キャップ加工による水位調節方法(例示)
- 現況満水位 +4cm
- +8cm
- +12cm
- キャップを約1/3削除

▼ 新設：最大+20cmまで調整可能
 ▲ 現況：満水時水位
 ▲ 現況

取水口設置：既設U字側溝に接続

新設集水枠
 塩ビ管：72φ ストレナー
 現況地盤
 勾配：0.75%
 既設U字側溝
 既設雨水枠D排水口の管底高(平常時水位)
 PE管：72φ 止水栓付き

活動掲示板の新設

令和神苑
 師岡熊野神社
 法華寺
 いの池
 取水口設置
 排水口改良
 導水路改良
 導水路整備

出典：Google Earth をもとに作成

老朽化した石積護岸の一部修復 (危険箇所)

既存導水口の改良

新設導水管

太陽光発電の発電容量アップ (200W 50AH)

既存設備 50W

新設

ソーラーパネル 正面

エアレーション
 ・水のろ過の電源に使用

ヨコハマ市民まち普請事業

想定整備費用内訳書

※ 記入上の注意

- 「主な整備項目」「細目」欄の記入にあたっては、事務局と事前に十分調整してください。
- 「数量」欄については、やむを得ない場合を除き、「一式」と記入しないでください。
- 「地域住民等の参加」欄については、例えば地域が労力を負担する場合は、何人くらいが何日間くらい作業を行うかなど、できるかぎり具体的に記入してください。（見込みも含めて記入してください。）また、小中学校や子供会などが参加する場合は、その旨を明記してください。

主な整備項目	細目	数量	単価	計	地域住民等の参加 (費用又は労力の負担等)
導水工事	配管工事・掘削工事・試掘調査他	一式 90m 1ヶ所		3,850,000円	
監理費	導水工事全般の監督・管理	一式		385,000円	
石垣修復工事	崩落部分の修復工事	一式 2ヶ所		200,000円	本格修復は大幅な費用増加が予想されるので簡易な修復とする
水辺と池周辺の植栽費	苗木の購入	一式		200,000円	会員3人/3日DIYにより植栽する
活動掲示板新設	掲示板本体・設置材料・工事費	一式 1ヶ所		250,000円	会員3人/3日DIYにより本体組立・設置工事
太陽光発電の発電容量アップ	材料費(ソーラーパネル・コントローラ・蓄電池・配線材料・架台材料)	一式 1台		200,000円	会員2人/7日DIYにより組立・設置 エアレーションと池水ろ過の太陽光発電能力、蓄電能力のアップにより稼働時間拡大およびライトアップ企画の電源に使用する。
活動費	用紙事務用品費	一式		30,000円	プリンターインク・コピー紙等
活動費	資料等のコピー又は印刷費	一式		35,000円	図面の拡大コピー等
活動費	写真及び映像記録費	一式		50,000円	いの池愛護会の活動映像の制作
合 計				5,200,000円	

1次コンテスト以降の活動内容

◎かいぼり土の搬出（9月16日）15名参加



春のかいぼり（6月に実施）で池から引き上げ、池岸で乾燥した泥を森と畑に搬出（土嚢約200袋）

◎子どもと大人の池の掃除：大人23名、子ども11名

当日の様子（YouTube）



＜お知らせ＞ 師岡熊野神社「いの池」愛護会
参加者募集!!
子どもと大人の池のそうじ
 みんなで「いの池」をきれいにしよう!
 どなたでも参加できます
 日時：11月16日（土）9時～12時
 集合：いの池（予約不要）
 少雨実施：天候不順等で中止の場合は池横に掲示
 汚れても良い服装、手袋持参で参加ください
 子供用・大人用の胴長を買出します
 ・池のなかのそうじ

池中に入って落ち葉すくい。
 周辺の落ち葉掃除。



「いの池を中心とした地域
 資源循環システム」
 再生と維持のアクション

大人と子どもの
 全世代交流の場づくり



自然環境と人工施設
 その実態調査と把握

◎水のいきものクイズ（大反響）



◎軽食を食べながら、みんなで今日の振り返り



子どもたちが池や池の周りでやってみたいこと
 ○鬼ごっこ
 ○ザリガニ釣り
 ○池中流れるプール
 ○池の島に渡りタクシー
 ○宝探し
 ○池の中でご飯を食べる
 ○生き物探し



◎池への現状導水可能水量を調査（9月）：4名参加



- 令和神苑を循環している地下水のオーバーフロー水は、約1m³/日を確認。
 （節水のために昼間の8時間稼働、最低必要水量に調整している）
- 他に手水舎のオーバーフロー水（水道水）と社殿屋根の雨水を利用可能を確認。

・石積護岸のゆるみチェックの結果：
 危険箇所：2カ所、ゆるみ箇所：14カ所

◎「年末年始のライトアップ」準備



◎ドングリ苗ポッドづくり（育てて森に植樹）



いの池愛護会の「これまで」と「これから」

～アクションとアイデア(創発)の循環により、世代を超えて次のアクションを生み出す～

これまでの活動

- ①かい掘り(1, 2回/年)
池の水を抜き、池底にたまった泥、落葉やごみを引き上げる
- ②清掃活動(不定期)
落ち葉清掃、除草・水源の草刈り、水中の枯枝引き上げなど、池をきれいにする活動
- ③子ども達を含めた地域交流(随時)
 - ・池に棲む生物に触れる体験
 - ・水の生きものクイズ
 - ・池のライトアップ
 - ・いの池歴史勉強会(出前授業)
 - ・竹灯籠づくりと池周辺への設置・点灯

④情報発信 SNSで告知



Instagram:
inoike.aigokai
#いの池愛護会

《気づきの機会》

- 「まち普請事業活動懇談会」(9月)
⇒ “定期的な活動日を設けてはどうか”
- 「子どもと大人の池のそうじ」(11月)
⇒ 子どもたちの声(おにごっこ、宝探し・やりたい!)
- 「いの池を護るとはどういうことか?」意見交換(11月)
⇒ ・集まるきっかけは、かい掘りのような大掛かりなこと
でなくてもよい!
・活動の内容は愛護会のアイデアの押し付けではなく、
集まった人々から自然発生的に生まれてくる! などなど

これからの追加的取組(アイデア含む)

- ①会の活動理念や歴史のまとめと発信
発足メンバー等からの聞き取りにより活動の理念と歴史をまとめ、発信・伝承
- ②目指す活動の方向性・将来像のデザインと共有、
それに向けた態勢づくり(継続的に)
目指したい方向性・将来像を会員間で議論・共有、
実現に向けた態勢をつくる
- ③池に足を運ぶ機会を増やす
清掃活動に定例日(土曜日)を設ける
- ④池と森を守る活動
 - ・地元中学校生物部の参加を得て池の生き物調査
 - ・森のどんぐり苗木ポットを育ててみんなで植樹
 - ・竹を使ったコンポストづくり(地元小学校と)
- ⑤池に親しむための企画
 - ・“地球環境保全型”流しそうめん(子ども会と共催)
※増え過ぎた竹を伐採して使い、使用後は竹炭にして資源を思い尽くす
 - ・お隣子会など別団体の発表の場づくり
 - ・キッチンカーが来る! ・謎解き宝探しなど

⑥情報発信等

- ・掲示板を新設し、活動内容を発信、
交流スペースとして活用
- ・YouTube チャンネルの開設



YouTube

<https://www.youtube.com/channel/UCT6BTXsLgidajA5LQJ4TBHg>

2次コンテスト事前質問集

【提案名グループ名】 師岡熊野神社「いの池」愛護会	
事前質問	回答欄
朝比奈委員	
① イベントや作業を通じて関心が高まっているようすがうかがえます。活動への継続参加や運営の仲間づくりについてどんな工夫を考えていますか。	<p>これまでの活動の経験やそれぞれの世代の思いを共有して、出来ること得意なことを分担して楽しくやっていくための話し合いを重ねていくことが基本と考えています。その上で、かい掘りのような大掛かりな活動だけではなく、人が集まるきっかけをもっと多くして顔が見える関係を築きたいと思っています。</p>
② 活動の収支計画について教えてください。	<p>いの池愛護会は、師岡町に住む人々の地元の歴史に触れながら憩う場所との認識のもと「いの池」を美しく維持・保全し、これを継続させていく目的で令和元年 12 月に設立した自主自立の非営利団体です。その運営は会費及び会員・活動協力者からの作業用具等の提供により、収支面に支障がなく行われてきた5年間の実績があります。(会員は令和2年度期末 28 名に対して令和5年度期末 45 名と 17 名増加)</p> <p>今回整備する施設の維持管理費は、太陽光発電の発電容量アップに係る「鉛蓄電池」・「水中ポンプ」など消耗品費等 9,400 円の支出を見込む必要があります。</p> <p>愛護会の運営は、一口 1,000 円で年間 100 口程度の会費収入で行っています。</p> <p>設立以来 5 年の間、地道に継続実施してきた活動の主な支出は、かいぼりで使用する胴長靴の補充や、かいぼり後の軽食提供材料、</p>

	竹灯籠や池のライトアップ材料、ほうきなど清掃用消耗品の購入で、今回の整備する施設の維持管理費を加算しても剰余金（次期繰越金）の推移から今後も維持できる見込みにあります。
植松委員	
①公道の下を導管を通すことで通水することのだが、より高位置にある場所から傾斜を利用したの通水でつまりなどの心配はないでしょうか。	<p>境内の玉砂利（碎石）や落ち葉が導水管に混入してつまることが想定されますが、下記により「つまり」の心配を排除できると考えています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・坂道沿いは転がし配管で導水管を設置する予定です。景観上許容されと考えられる外径約 75 mm（内径約 60mm）の導水管を選定し、小さな異物が管内に滞留しないようにします。 ・既設の排水マスと導水管の間に新設する約 40 cm角の取水マスの出入り口にストレーナ（ふるい）を設置して異物を除去します。 ・導水を一時止める池のかいぼりの際に取水マスとストレーナを点検し清掃します。
②神社の神泉であり、農地のため池でもあった当該池が流水を呼び込むことで息を吹き返し、掻い堀による環境意識の啓発や汚泥の肥料化、竹細工による近隣の交流の場づくり、太陽電池によるライトアップなどが実現することのだが、それらを継続させていく秘訣を教えてください。	<p>同じ活動を継続することは大切なことと思いますが、活動の成果によってこの池の環境はより良く整えられていき、それによって活動の参加者の思い、そして師岡に住む人々の思いも変化してくるはずで、「私たちの学び・知識とアクションでこの池を護っていく」という地元主導の態勢づくりという考えを活動の根底に据え、地域の人々あるいは会員の思いを世代間の壁を超えて拾い上げて共有し、具体的な活動に移していくことこそが継続には不可欠と考えています。</p>
川原委員	
質問なし	
後藤委員	
質問なし	
杉崎委員	

<p>①整備のときにメンバー以外の地域住民等が参加する作業などを予定しているかを教えてください。</p>	<p>池周囲の環境整備の一つとして、水辺植物と池周囲の植栽を増やす計画があります。</p> <p>池周囲の植栽は会員が行うこととなりますが、水辺植物の植栽は、かいぼり時作業に組入れ、会員外のかいぼりに参加した子どもと大人にも参加を呼びかけてまいります。</p> <p>なお、上記以外にも活動が押しつけではない楽しいものになるように、作業参加者等からアイデアを求めるなどの検討会や行事開催後の懇親会などを実施し会員以外の方で愛護会の活動に興味を持っている方にも輪を広げてまいります。</p>															
<p>②電気代等、整備したものの維持管理にかかる費用はどれくらいですか。</p>	<p>今回整備する施設では下記の維持管理費用が予想されます。</p> <p><1 項 神社から池への導水管の設置> 導水量を増やす場合を想定 汲みあげ地下水の増加に伴うインバータ式600W 水中ポンプの電気料金増分。 100W 8 時間/日稼働とすると 24kWh/月 × @36.4 円 ÷ 900/月 = 10,800 円/年</p> <p><4 項 太陽光発電の発電容量アップ> 池の水のエアレーションとろ過稼働時間拡大に伴う部品の予防修理交換</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td>水中ポンプ</td> <td>1 回</td> <td>3,500 円/年</td> </tr> <tr> <td>エアーポンプ</td> <td>1 回</td> <td>1,500 円/年</td> </tr> <tr> <td>長寿命鉛蓄電池</td> <td>1 回</td> <td>20,000 円/5 年</td> </tr> <tr> <td>ホース</td> <td>1 回</td> <td>2,000 円/5 年</td> </tr> <tr> <td colspan="2" style="text-align: right;">小計</td> <td>9,400 円/年</td> </tr> </table> <p>1 項と 4 項の合計 ¥20,200 円/年</p>	水中ポンプ	1 回	3,500 円/年	エアーポンプ	1 回	1,500 円/年	長寿命鉛蓄電池	1 回	20,000 円/5 年	ホース	1 回	2,000 円/5 年	小計		9,400 円/年
水中ポンプ	1 回	3,500 円/年														
エアーポンプ	1 回	1,500 円/年														
長寿命鉛蓄電池	1 回	20,000 円/5 年														
ホース	1 回	2,000 円/5 年														
小計		9,400 円/年														
<p>鳥海委員</p>																
<p>① 水温や環境の変化によって今の生態系が変わることはありませんか？専門家や有識者の伴走はありますか？</p>	<p>今回の導水による池の水質改善の目的の一つに、雨が降らずに池の水量が減る夏のアオコ発生抑制があります。</p> <p>導水量は今後検討する予定ですが、現状の予定導水量は一日あたり 1~3 m³ (令和神苑の汲みあげ地下水と手水舎のオーバーフロー</p>															

	<p>水道水（神社行事時期で変化）です。別に降雨時には社殿の一部の雨水が加わります。今回の新たな導水量は現状の池の総水量約 230 m³に対しては僅かで、今の生態系が変わる（悪化する）ことはないと考えています。</p> <p>いの池の水質改善方策については、愛護会発足当初より熊野神社市民の森を管理されているみどり環境局北部公園緑地事務所に相談しながら進めてきました。多様な生物が棲む池の環境を再生するため、かいぼりによる池底に溜まった堆積泥を減らす取組とともに以下の助言をいただいています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水を循環させる ・池底に光を入れる（周辺樹木の選定） ・生物の個体数の適正管理 <p>今回の導水計画への助言は</p> <ul style="list-style-type: none"> ・池に川のように大量の水を流さないこと、流すと池内の有機物（沈んだ落葉等）を分解するバクテリアがいなくなってしまうとのことです。
<p>② 綺麗になった池に親しむ活動とは具体的にどのようなことをイメージされていますか？</p>	<p>池をきれいにする活動は継続的に行う必要があると考えています。それによって会員だけでなく地域の人々が顔を合わせ、自然発生的に「これをやっといこう」という活動の萌芽が生まれてくることを期待できます。そうやって自分達で自分達のやることを見つけ、それを実践していくことが子どもにとって懐かしい経験・思い出になり、地域の人の声でもあるいの池が日常生活の一部になることと考えます。</p>
<p>③ ざりがにや昆虫、野草、水生植物等は団体が管理するイメージですか？市民の物ですか？「採ってはいけません。」「入ってはいけません。」等、周知して管理を考えている「禁止事項」があれば教えてください。</p>	<p>「いの池」は昭和 30 年代まで師岡の地を潤す貴重な農業用水の水源として、谷戸地形の水と土の利点を最大限に活かす地域の共有地（コモンズ）として護られてきました。周辺の宅地化が進んだ現在は熊野神社市民の森の一部として、土地所有者（代々の土地所有者</p>

と師岡熊野神社)の協力により市民のいこいの場として利用させていただいています。「いの池愛護会」は熊野神社及び氏子総代会の信任を得て、池をきれいに維持保全する活動の中心的な役割を担い、現代的にコモンズを蘇らせる活動を行っています。

「ざりがにや昆虫、野草、水生植物等は団体が管理するイメージですか？」

⇒いの池愛護会が日常的にそれらを直接管理しているわけではなく、いの池と周辺の自然な環境を再生し生態系を維持保全するための活動を行っています。

「市民の物ですか？」

⇒特定の者の所有物ということではなく、地域のコモンズとして皆で生態系を護っているという認識です。

「周知して管理を考えている「禁止事項」があれば教えてください」

⇒市民の森の利用マナーの掲示板が池の周囲3か所あり、以下の記述があります。

「生き物を持ち込まない、持ち帰らない」

⇒いの池愛護会では活動参加者に次の内容を周知しています。

生態系のバランスをこわさないよう、外来生物法で指定されている「アカミミガメ」

「アメリカザリガニ」を

- ・(最期まで飼えないなら)持ち帰らない
- ・飼うなら最期まで大切に飼う
- ・池や川に逃がさない

また、池に来る鴨などへの積極的なエサやりは近隣のお宅への糞害のクレームもありご遠慮いただいています。

④ 大がかりな工事は業者が行うことになるかと思えます。その他の整備に携わる項目に、「会員2人/7日・会員

① 水辺と池周辺の植栽

② 掲示板の組立設置

③ 太陽光発電の組立・設置

<p>3人/3日」等、人数が書かれています が、述べ8名の会員は同じ方が重複 して担当されていますか？その場 合、地域住民や他のメンバーはどの ような形で整備に関わりますか？</p>	<p>④石積護岸の修復 について、電気工事、土木・機械工作、設備 工事を得意とする会員が主に行うことにな り、重複しての担当となります。(会員や行事 参加者の中には特技・技術・経験などを有す る方々がいます。今回予定している方々も作 業検討会や作業後の懇親会、作業合間の雑談 で自分だったらこうする、こうしたいとの意 見から担当してもらうこととしており、押し 付けではなく話し合いの結果によるもので す。)</p> <p>検討会・懇親会等の場でそれぞれの方々の できること、やりたいことの意見を求めるな どにより、技能等に応じ作業に参加する人の 輪を広げてまいります。</p> <p>現時点では、水辺の植栽や石積護岸の小石 充填など整備内容から適切なものを選定し、 子ども達の参加を募り、大人と協働作業を経 験してもらうことを考えています。</p> <p>また、各整備事業の工事進捗状況や実施日 等については、かいぼり・清掃活動時や、SNS 等で、会員はもちろん、地元の方々にも適時 発信し、関心を高めてまいります。</p>
<p>肥後委員</p>	
<p>① 愛護会の活動理念や歴史の取りまと めと発信とは、具体的にどんなこと をする予定ですか？</p>	<p>かつては「いの池」を含む水路が農業用水 として管理・利用されていましたが、時代と ともに水源として利用されることもなくな り、土地の経済的な利用を目的に埋めよう という議論も行われました。愛護会は、そう した中で何とか保全・維持を自分たち地元の手 でやっていこうという有志4人により令和元 年に設立されました。その思いは設立趣意書 にまとめられています。</p> <p>まずは、有志4人を始め会の発足初期から 参加しているメンバーと次世代のメンバー</p>

	<p>が、共に活動する中で、その想いや経緯、これまでの進め方を実感し、聞き取り・取りまとめ・会員間での共有の場づくりを一層進め、その内容を掲示板等広報媒体に掲載することを考えています。</p>
<p>② 上記と重なりますが、将来像のデザインと共有とは、誰に向けて何をするイメージですか？</p>	<p>新たなメンバーが加わる中で、新たなアイデアも生まれてはいますが、各メンバーが会の設立趣旨を理解し、これまでの活動の歴史の上に活動を続けていくことが大切と考えています。このため、まずは、メンバー間で設立趣旨や歴史を踏まえた上で、どのような活動をしていきたいか、その活動によって何を目指すのかを議論し、共有していきたいと考えています。</p> <p>まち普請事業の応募を通じて、実際にこうした議論を行い、メンバーの思いを文字や絵にすることにつながっています。</p> <p>こうしたことも行いながら、更に地域に対する発信を行い、理解を広げていきたいと考えています。</p>
<p>松村委員</p>	
<p>① 「いの池を護るとはどういうことか？」に関して、地域の方々にとっての意味や意義はどのような意見が挙がりましたか？</p>	<p>11月9日の意見交換では、参加者の想いとして次のような意見が挙がりました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子ども達に「なっかしい」と思い出せる経験をつくる（愛着をもってもらう）。 ・生き物が生きていて、人が生活していて、憩い、癒しになる。命に触れ合える場所。 ・地元の町に池があることがいい。人が集まってくる場所であって欲しい。 ・いの池が生活の一部であって欲しい。 ・まだ限定されたメンバーが中心だが、人のつながり（人の循環）がもっと広く、世代を越えて生み出されるといい。 ・人が集まる場所だというみんなの共通理解が生まれる（醸成される）とよい。 ・いろいろな人がつないでくれている／参加

	<p>してくれる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・以前は暗くて怖いイメージだったが、「池で色々やっているよね」「いの池があるといいよね」と子ども達が思えるようになってほしい。 ・池に通りにかかる人が楽しくなるように。敷地がきれいなだけでも人は集まる。 <p>活動内容を企画・準備する側が、その活動と一緒にいった参加者を交えて活動の振り返りのための話し合いを行うことで、こうした「思い」だけでなく、今後のアクションにつながる「アイデア」も引き出されました。</p>
<p>② 地域資源の循環は、どこからどこへ、どのような資源がめぐっていくのですか？その循環システムを再生させる目的は何ですか？</p>	<p>水と土の循環があると考えています。</p> <p>【水】森に降った雨は土に浸透し、いの池に流れ込みます。神社周辺の湧き水は時代とともにあまり見られなくなってしまいましたが、神社境内で汲み上げた地下水のオーバーフロー水等をまち普請事業によって池に導水することで、地下水を循環させることができ、また池の水の循環を作ることができます。</p> <p>【土】市民の森で育った木々からの落ち葉の一部が池に流れ込み、堆積し泥になります。池のかい掘りによってその泥を森に還し、森の土の栄養となります。一部は近隣の畑で肥料として利用されます。</p> <p>水が水脈に沿って巡り、土が豊かさを回復していく中で、生命もまたその生きる力を回復していきます。かつてはいの池を中心に、種の棲み分けと種の相互依存による生命圏があったと聞いています。私たちは愛護会の活動を通してその生命圏がまだまだここにはあるとの実感を得てきました。</p> <p>それをかつてと同じように回復させること</p>

はできないとしても、こうした自然の循環の輪に私たちもその一部として参画し太くすることで、いの池やその周辺地域を美しく維持・保全し、池に生きる生物や池に集まる生物の多様化、豊かな自然の再生につなげていけるとの手応えを得ています。この手応えを手がかりに、この自然の循環の輪を再生し維持していきたいと考えています。そしてその活動を通じて、子ども達が自分のふるさとに愛着と誇りを持てるようになると考えています。

環境省は、地域資源を活用して環境・経済・社会を良くしていく事業（ローカル SDGs 事業）を生み出し続けることで地域課題を解決し続け、自立した地域をつくとともに、地域の個性を活かして地域同士が支え合うネットワークを形成する「自立・分散型社会」を示す考え方として「地域循環共生圏」という概念を打ち出しています。その際に、私たちの暮らしは森・里・川・海のつながりからもたらされる自然資源が活用できる範疇でのみ成り立つため、それらを持続可能な形で活用していくとともに、自然環境を維持・回復していくことが前提となると謳っており、愛護会の活動はこれを実践することにつながります。

（「環境省ローカル SDGs」ホームページ）

<https://chiiki.junkan.env.go.jp/shiru/#a-shiru-about>

③ かい掘の参加した人が愛護会に入会するケースは、1年に何人くらいいますか？

入会申込は、①かいぼり・清掃等の行事参加時の申込②SNS・池横の掲示板等をみての申込③会員を介しての申込などがあり、かいぼり参加に特定して捉えることは難しいです。

年間の新規会員数の推移は、令和4年：7名、令和5年：9名、令和6年（11月末現在）6名となっています。

なお、会員増加は、役員の若返りや女性の

視点を入れるなど人のつながりを広くすることにより加入会員世代を拡大して、多様な活動内容に繋がるアイデアを引き出すと共に楽しい「いの池」愛護会活動に発展させることにより図っていきます。

会員の増加も大切ですが、会費を払って会員になる方々だけでなく「いの池」を大事に思ってくれる地域の方々と一緒に活動することが大事と考えています。